

最新の心臓手術 医師らに大反響

巨大モニターで生中継

ホテル日航豊橋会場

心臓疾患の治療、技術向上を目指す「コンプレック・ス・コロナリー・インターベンション・カンファレンス(CCCIC)」が六日、

ホテル日航豊橋で閉幕し



会場の巨大モニターに映し出された心臓治療の生中継(ホテル日航豊橋で)……

た。最新の心臓治療を自にしようと連日、千数百人を越える医師や関係者が来場し、大変な賑わいを見せた。

CCCICは、最先端の心臓外科手術を紹介し、医師

の技術向上を目指すもので、六回目。豊橋での開催は平成九年に続いて二回目。これまで各地で巡回して開いてきた。

今回、同市大山町の豊橋ハートセンターの鈴木孝彦院長(前国立豊橋東病院副院長)と、名古屋第二赤十字病院循環器センター内科の平山治雄氏が、当番世話人となり、三日に閉幕した。

テーマは「冠動脈疾患治療の二十一世紀に向けた展望と現在の最適な治療の普及」。

同日の心臓手術のライブデモでは、ハートセンターと第二赤十字病院、米ニューヨークのレノックスヒル病院での心臓手術の生中継が衛星回線で、会場に設けられたモニターに映し出され、コメンテーターらと問答点をアイスカッションしながら手術を進めた。

とくに大騒ぎ(いとも)

の内側の動脈から、極細のワイヤー様のものを入れ、

心臓まで到達、治療する「PTCA」という最新技術を使った手術が注目を集め、来場者らは息を飲んで画面に見入った。

ライブデモのほか、会期中、日本人医師約百三十人、二十五カ国から外国人医師約六十人が、プレゼンテーションやシンポジウムを行った。

CCCICは今回で最後。次回は世界的に向けて最新技術を発信する「CCT・Japan」として、第一回を来年十月に神戸市で開催。